

ローマ人への手紙:「救い」という王冠の宝石 21 -律法については、どうでしょうか？

律法を守ることで私は救われますか？

ローマ人への手紙6:14

Grace Fellowship Church / Pastor Brad Bigney / Feb. 2, 2014

ローマ6:14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。
なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。

クリスチャンだけが、もはや「律法の下」
ではなく「恵みの下」にある者です。

I. 律法の目的は何だったのでしょうか？

聖書中に見ることのできる律法の三つの目的

A. 律法はあなたを規制/管理するためのものだけれど、決してあなたを変えることはできない！

イエス・キリストと福音の力のみがあなたを変えてすることができます。律法は外側からの脅しによってある程度あなたを規制/管理するためのものです。

ガラテヤ2:16 しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、… なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもないからです。

聖書は、神の前に正しいとされる方法が二つあるとは言っていません。旧約聖書の人々は律法によって救われたのではありません。彼らは、先（将来）を見る信仰によって救われました。それは約束された贖い主、メシアが来るという信仰です。一方私たちは、後ろ（過去）を見る信仰です。即ち私たちの救い主、贖い主が既に十字架上で死んで、よみがえられたことを信じます。

ローマ4:2-3 ²もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の 御前では、そうではありません。³聖書は何と言っていますか。「それで アブラハムは神を信じた。それが彼の義と見なされた。」とあります。

ローマ4:9 私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」とっていますが、

律法を守った結果によって天国に入る人は誰もいません。律法は誰一人救いませんでした。何故なら、そのようには意図されていなかったからです。

ガラテヤ5:1 キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。

ガラテヤ3章4章を読んでみると、「奴隷のくびき」とパウロが律法について語っているのに気付くでしょう。それは「すべきこと」「してはいけないこと」の昔の制度です。

あなたが律法をあなたの救い主と見るとき、以下の二つのうち、どちらから一つが起きます。

1. あなたは、自分で結構良く出来ていると思いながら律法を守る。そして自己義認になる。それは以前のあなたよりも、さらに悪いパリサイ人。何故なら、あなたは福音と救い主の必要に気付くことさえないから。
2. あなたは、惨めに失敗し、どんどん鬱の失望の底へと落ちて行く。そして時折、奮起して頑張ろうとするのを繰り返す。とりわけ、新年の始め等に。

これは、あなたが律法をもってすべきことから、全克的外れなことなのです！

ガラテヤ5:4 律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。

選択は二つに一つしかありません。律法か恵みかです。あなたが律法に向かって走るとき、あなたは恵みと恵みの救い主から離れ、走り去って行くのです。

- B.** 律法はあなたをキリストへ導くものとして意図されており、キリストの位置を占めるものではありません。

ガラテヤ3:23-25 ²³信仰が現われる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。²⁴こうして、律法は私たちをキリストへ導くための 私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。²⁵しかし、信仰が現われた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。

もしあなたがクリスチャンなら、律法に養育係になってもらう必要はありません。あなたが主なるイエス・キリストと出会い、愛するようになったなら。イエス様は規制する方ではなく、関係を持ってくださる方なのです。

「キリストにある本物の喜びと確信が弱まる時、キリストの力が一度削り上げたものを保つために、規制が持ち込まれるのです。」 ジョン・パイパー

キリストへの愛とキリストの恵みが、今私たちを動かすはずなのです。律法によってしめつけるのではないのです。私たちは今やキリストと結ばれたのです。

ローマ7:4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

律法はあなたをキリストへと導き、そこでキリストとの愛の関係を持ち続けるように、意図されていたのです！昔の養育係や監督者のところへ戻らないでください。キリストのもとに、とどまりましょう。キリストを心から愛するようになりましょう。

C. 律法は私たちの本当の姿をあらわにしますが、キリストの義の衣を私たちに着せることはできません。

律法は私たちの内側を露呈し、本当の状態を鏡のように映し出します。けれど、あなたは自分自身を変えるために、鏡を覗き込みません。自分がどんな風に見えるか知るために、鏡を見るのです。けれど、鏡にはあなたを変える力はありません。単にあなたの真の姿を映し出すだけです。

ローマ3:20 なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

II. では、今私たちはどのようにして律法から「自由」になれるのでしょうか？

ローマ7:6 しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

The Message 訳:「キリストが死なれた時、キリストは、規則に縛られた生き方全体をご自分と伴に引き降ろし、墓の中に閉じ込めました。あなたが自由になって復活したいのちと結婚し、神に対する信仰の子孫を産むようにされたのです。…けれど、今や私たちは、罪と言う支配的な仲間と縛られることはなく、抑圧的な規制や細かい活字の支配から抜け出て、神の自由の中で、新しい人生を生きる自由を得ているのです。」

7章で、パウロは、私たちと律法の間を表現するために、結婚のたとえを用いています。パウロは、私たちの失われた、罪に満ちた状態にあっては、私たちは律法と結婚していましたが、今はキリストと結婚しているのです、と言っています。

ガラテヤ2:19-21 ¹⁹しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。²⁰私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。²¹私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。

あなたは、真に、全く変わることができるのです。キリストと、キリストがあなたのために十字架で成してくださったことに、あなたの信仰を置くときに。恐れ、罪悪感、恥、律法のもとでの規制という人生から、イエス・キリストとの結婚関係における自由と愛の人生へと移ることができるのです。